

⑬日本国特許庁
公開特許公報

⑪特許出願公開

昭53—94041

⑤Int. Cl.² 識別記号
A 61 K 7/02
A 61 K 7/043

⑤日本分類 庁内整理番号
31 B 4 6865—46
31 E 2 6770—46

⑤公開 昭和53年(1978)8月17日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 4 頁)

④メイクアップ化粧料

—306

②特 願 昭52—7526

②出 願 昭52(1977)1月26日

②発 明 者 徳田純一

東京都世田谷区船橋 6—26—1

②発 明 者 清水徹

三郷市彦成 3—11—2—802

①出 願 人 株式会社小林コーセー

東京都中央区日本橋 3—6—2

④代 理 人 弁理士 有賀三幸 外 1 名

明 細 書

1. 発明の名称

メイクアップ化粧料

2. 特許請求の範囲

- (1) 皮膚形成成分として非水系ポリマーデイスパージョンを含有することを特徴とするメイクアップ化粧料。

- (2) 非水系ポリマーデイスパージョンが、(a)分散重合体がステレン；α-メチルスチレン；エチレン；プロピレン；またはアクリル酸もしくはメタクリル酸と炭素数4〜18個の高級アルコールとのエステルとの重合体またはこれらの共重合体で、該体が高級アルコールであるか、または(a)分散重合体が脂肪族ビニル；またはアクリル酸もしくはメタクリル酸と炭

素数4以下の低级アルコールとのエステルとの重合体またはこれらの共重合体で、該体が脂肪族炭化水素、芳香族炭化水素またはこれらの混合物である特許請求の範囲第1項記載のメイクアップ化粧料。

3. 発明の詳細な説明

本発明は皮膚形成成分として非水系ポリマーデイスパージョンを使用したメイクアップ化粧料、特にアイライナー、マスカラ、アイブロウ、マニキュア等に関する。

従来、アイライナー、マスカラ、アイブロウ等のメイクアップ化粧料は、その組成成分において、乳化タイプ、皮膜タイプ、油性タイプ、油性皮膜タイプが知られている。すなわち、乳化タイプは液体油、ワックス類

と水とを界面活性剤で乳化し、ワックスの皮膜を利用するものであり、皮膚タイプはアクリル系、脂肪ビニル系等の水性エマルジョンを主成分とし、その高分子化合物の皮膜を利用するものであり、油性タイプは揮発性炭酸水素と液体油、ワックス類とを主成分とし、ワックスの皮膜を利用するものであり、また油性皮膚タイプは乳化タイプと皮膚タイプの組合せ、あるいは油性タイプと皮膚タイプの組合せで、各タイプの共所すなわちワックスの皮膜のよさと高分子化合物の皮膜のよさを利用したものである。

しかし、これらのメイキャップ化粧料は次の如き欠点を有し、化粧料として必ずしも満足し得るものではない。すなわち、例えば、

そこで、本発明者は斯る欠点を改良すべく鋭意研究を行った結果、皮膚形成成分として非水系ポリマーディスパージョンを使用すれば従来の水性エマルジョンを使用した化粧料に比較し、化粧性能、安定性、致傷性が著しく改善されることを見出し、本発明を完成した。

従つて、本発明は皮膚形成成分として非水系ポリマーディスパージョンを含有するメイキャップ化粧料を提供せんとするものである。

本発明で使用される非水系ポリマーディスパージョンとしては、例えば次の(a)または(b)のものが挙げられる。

- (a) 分散重合体：ステレン、 α -メチルスチレン、エチレン、プロピレン、アクリル酸またはメタクリル酸と炭素数4〜

乳化タイプにおいては耐油性、耐水性が充分でなく、皮膚タイプでは耐水性、乾性性はある程度良好であるが、多量の汗、水等に対しては化粧効果の保持が不充分であり、油性タイプにおいては耐油性が全く不充分であると共に乾性も満足できるものでなく、油性皮膚タイプにおいては皮膚形成主成分として水性エマルジョンを使用しているため、油性ベース中で安定配合することを必要とし、その結果O/W/O型のダブルエマルジョンまたはトリプルエマルジョン化する必要があり、そのため界面活性剤の使用を余儀なくされている。しかし、界面活性剤の使用は皮膚刺激の点で好ましくなく、また化粧効果の点でも耐油性、耐水性の低下を招く結果となる。

18個の高級アルコールとのエステル類の重合体またはこれらの共重合体。

基体：エタノール、プロパノール、イソプロパノール等の低級アルコール。

- (b) 分散重合体：脂肪ビニル、プロピオン酸

ビニル等の脂肪族ビニル、アクリル酸

またはメタクリル酸と炭素数4以下の

低級アルコールとのエステルの重合体またはこれらの共重合体。

基体：ミネラルスピリット、アイソパー

(エツソ石油社製)、IPソルベント

(出光石油社製)等の脂肪族炭化水素、

芳香族炭化水素またはこれらの混合物。

本発明のメイキャップ化粧料は、通常の油性タイプのベースに皮膚形成主成分として非

水系ポリマーディスパージョンを配合し、液体として揮発性炭化水素（沸点110～250℃）を使用して常法に従って製造される。メイヤックツ化粧料に配合する非水系ポリマーディスパージョンの配合割合は個々の製品形態によつて広範囲に変化させることができる。

このように、本発明の化粧料は液体も分散重合体も共に油性物質であるため完全な油性ベースが形成され、その皮膜は従来の水性エマルジョンを使用した化粧料に比較し、耐油性、耐水性、耐洗性等の機能において著しく優れている。また本発明化粧料は上記のような構成であるため、公知の化粧料中最も好ましいものとされている油性皮膜タイプ化粧料と比較した場合、安定な化粧料を得るのに大

づルエマルジョン、トリプルエマルジョン化する必要がなく、極めて簡単な操作で製造できる。更にまた、液体としてエナメルアルコールを使用してニールエナメルを製造するとき、トルエン、酢酸エチル、酢酸ブチル等の溶剤を使用する従来のニールエナメルに比較し、毒性の少ないものを提供することができる。

次に実施例を挙げて説明する。尚実施例中の配合比は重量比で示した。

実施例1（マスカラ）

① アイソパー	4.0
② カルナバワックス	7.0
③ パラフィンワックス	8.0
④ ラノリンアルコール	5.0

⑤ 酸化鉄（黒色）	7.5
⑥ タルク	7.5
⑦ 非水系ポリマーディスパージョン	25.0
（分散重合体：アクリル酸メ チルエステル重合体、液体： ミナラルスピリット）	

⑧ 香料 適量

製法：①～⑥を加熱し、ローラー処理して均一となし、次いでこれに⑦、⑧を攪拌下加えて製品とする。

実施例2（アイライナー）

① アイソパー	88.0
② ベントナイト	2.0
③ 体質顔料	85.0
④ カーボンブラック	2.0

⑤ 非水系ポリマーディスパージョン	23.0
（分散重合体：アクリル酸エ チルエステル重合体、液体： アイソパー）	
⑥ 香料	適量

製法：①～④を加熱し、ローラー処理して均一となし、次いでこれに⑤、⑥を攪拌下加えて製品とする。

実施例3（アイライナー）

① アイソパー	28.0
② ラノリンアルコール	6.0
③ ミツロウ	0.5
④ パラフィンワックス	0.5
⑤ 体質顔料	45.0
⑥ 着色顔料	5.0

⑦ 非水系ポリマーディスパージョン 15.0

(分散重合体：酢酸ビニル重

合体、顔料：アインパー)

⑧ 香料

適量

製法：④～⑧を加え、ローラー処理して均一となし、次いでこれに①、③を撹拌下加えて製品とする。

実施例 4 (ニールエナメル)

① アインパー 10.0

③ 非水系ポリマーディスパージョン 88.0

(分散重合体：酢酸ビニル

-アクリル酸共重合体、顔

料：エタノール)

④ ヒマン油 1.2

⑤ 着色顔料 0.8

製法：a：①と③を均一に混合する

b：④と⑤をローラー処理して均一と

する

aにbを加えて製品とする。

以 上

出 願 人 株式会社 小林コーセー

代 理 人 弁理士 有 賀 三 幸

弁理士 高 野 登 志 雄